

# ティーチング・ポートフォリオ

健康科学大学 看護学部 看護学科

准教授 窪川理英

## 1. 教員の責任

少子超高齢社会の中、医療を取り巻く環境は急速に変化しており、看護師に求められる役割や責務は増大している。平成四年に看護師等の人材確保の促進に関する法律が施行され、看護教育は専門学校から大学教育へと変換の道を歩んでいる。2022年看護学校への入学制は「看護大学」が最多となり、今後看護教育は大学で行われる傾向が強まっているといえる。山梨県内でも看護大学3校、専門学校3校と拮抗状態である。このような状況で本学は唯一の私学大学であり、今後専門学校生を吸引する要素は他の2校の公立大学より容易であると考ええる。

しかしながら、受験生の減少、大学受験方法の変更により、この春（2023年令和5年発表）大学進学率56.6%の数字が発表された、半数以上が最高学府であるという大学進学をしているということは、大学生の平均学力低下していることにもなる。本学のように入学方法の3分の2がAO入試や推薦方法といった状況であると基本的な学力「読む、書く、計算する」ことすら危うい学生が入学してしまうことがある。成績上位であっても昨今、基礎看護学を学ぶ学生は、「主体的学習態度に欠ける」「考えるプロセスより正解を求める」「知識を関連づけたり、活かすことができない」といわれており、学生の主体性を育てる教育の必要性が示唆されている。また、「生活体験の乏しさから、教育を行ううえでは教員の丁寧な関わりが必要となる反面、それが学生の主体性や自立性を育ちにくくしている側面となっている」と言われるように、看護教員に求められる役割も増大している状況である。

私は健康科学部の看護学科の教員として、看護学科の基礎看護専門科目を中心に担当している。過去の担当と授業科目は以下のとおりである。各授業のシラバスは健康科学大学のホームページ上で公開されている。主要な担当科目は、基礎看護技術及び看護過程に関する看護の基礎となる専門科目である。そのほか、ヘルスアセスメントの演習や看護研究指導、基礎看護学実習・総合看護学実習などの指導科目を担当している。

2020年度

科目名	時期	科目名	受講者
看護援助方法論Ⅰ	1年通年	必修	78名
看護援助方法論Ⅱ	1年通年	必修	78名
看護過程演習	2年前期	必修	62名
フィジカルアセスメント	1年後期	必修	78名
基礎看護学実習Ⅰ	1年後期	必修	78名
基礎看護学実習Ⅱ	2年前期	必修	62名
看護研究Ⅰ	3年後期	必修	94名
看護研究Ⅱ	4年通年	必修	5名
看護総合実習	4年前期	必修	15名

本学での授業の他に、以下のような活動をしている。

- 1) 日本看護学会誌査読委員
- 2) 山梨大学医学部附属病院遺伝子疾患診療センター 看護スタッフ
- 3) 赤ちゃん体操指導員
- 4) 健康科学大学 研究・動物実験委員会 委員
- 5) 健康科学大学看護学部 学生・就職・卒後教育委員会 委員

1) の活動においては、最近の研究活動状況を把握できる利点があり、基礎看護領域以外の知識を得る貴重な経験と意義あるものとして取り組んでいる。また、学生の看護研究指導に役立てている。2) の活動においては、貴重な臨床場面への参加する機会となり、臨床現場の動向、新規治療法における情報収集、患者の抱える問題の聴取、卒業生の活動状況を知る機会を得ることができている。研究活動までに及ぶよう努力している状況である。

3) の活動は、紹介された患児に来校してもらい体操を享受している。この機会を学生の教育に還元できるように心がけている。

## 2. 教育の理念・目的

本学は、様々な総合的問題に立ち向かうことができる問題解決力を備えた人材」を養成するため、「豊かな人間力」、「専門的な知識・技術力」、「開かれた共創力」の三つの教育目標を掲げている

看護学部においても4年間の教育を通し、「豊かな人間力」を涵養するため、少人数制による演習・実習を重視し、看護実践に求められる態度教育を充実させ専門職業人として生命の尊厳と高い倫理性が持てるように教育します。「専門的な知識・技術力」は、生涯の社会生活やキャリア形成の基盤となる幅広い教養教育と看護専門職者としての知識・技術を育成する看護基礎教育に必要な教育課程を編成します。そのため修学に必要な知識と能力を確実に身につける主体性と自己学習力の涵養のため、初年次教育に力を入れます。

社会の変化に対応できる臨床能力を養うための専門基礎科目と専門科目をバランスよく配置し「開かれた共創力」がはぐくまれるようにします。

自然や社会に対する豊かな知識と人間に対する深い理解を持ち、人の尊厳を守ることのできる高い倫理性が身につくように指導を行っている。また専門職業人として、確かな技術とコミュニケーション能力を持ち、地域の人々や保健、医療、福祉などの関係職種と協働して問題解決をはかろうとする能力が身につくよう教育の工夫を行っている。昨今のさまざまな状況にある人々の健康課題に対し、多様なアプローチを効果的に用いる専門的能力を身につけられるよう、社会における看護の役割を理解し、人々の健康と幸福の実現に向けて、

関係者と協力することができる協調性が身につくように学生一人一人に細やかな指導を行っている。こういった効果として、専門職業人として、生涯学び続ける主体性が身につくことを願って教育している。

### 3. 教育の方法

教育の機会については、講義だけでなく、学内外の活動も含めて、あらゆる形式で展開していくことが可能である。授業開始及び終了時の基本的な挨拶や身だしなみを徹底させ、普段の生活態度についても指導していく。クラブやサークル活動についても、積極的な参加を促し、人的交流についても重要な教育的要素であることを意識づけしていく。園芸クラブでは職から健康を考える機会となるよう、栽培種目などに留意している

看護学の演習は、基本的に問題解決型授業の授業であるため PBL (Problem Based Learning:問題解決型学習) を導入している。あらゆる対象者をアセスメントする視点となる看護理論をもとに患者のニーズは今現在何であるのかを題材として、基本的な看護援助法を展開し演習し評価し、看護の流れを推論していく。グループワークによって、個々が調べた情報を整理して、最終的には援助の実演によるプレゼンテーションを実施する。情報収集や課題の整理において教員がファシリテーション役となって、グループディスカッションを促す。答えを漠然と提示するのではなく、必要な情報を促し、情報との関連について、ヒントを与えて、考える力を養う。グループワークの過程において、学習量、グループ貢献度の個人差が生じ、十分な課題解決が行えなかったりするなどの問題が予測されるため、グループ貢献度や学生同士の他者評価などを取り入れ学習のモチベーションを保つように行っている。事例提供など学生が考えやすい適切な課題設定を心がけている。

看護は、日常生活の援助を行う役割であるが、学生自身の生活環境が変化しているため、時代背景を含めて日常生活の設定に力を入れている。昼の生活、急須や湯飲みの使用など学生たちが経験したことのない日常を、患者にとっての日常であることを映像などを活用し臨床経験に即して情報を噛み砕いて分かりやすく指導している。具体的には、アニメでの茶の間の映像や動画を活用している。生活体験の少ない学生に演習ではなるべく患者役における学びができるように考慮している。相手の立場となった学びなどを授業の課題レポートとして考える機会としている。

授業評価アンケートを活用して、授業内容の反省点を振り返り、改善に活かすことができる。また、実際の授業内容についても、リアクションペーパーや小テストにより習熟状況を確認している。



演習風景：患者役の視線で眺めてみる



演習風景：足浴を科学的根拠に基づいてとらえる

#### 4. 教育の成果・評価

科目ごとに分析を行い、コメントの内容とともに、次年度のシラバスや授業内容に活かしている。看護過程演習はその名の通り演習スタイルをとっているため、個々の演習レポートに対して指導を行わなければならない。位階の提出レポートは3000字を超える内容であり、これが50名以上となるためレポート査読に長時間がかかり、個別の指導まで行えていない状況である。学生のわからないところはわかるが、わかるような指導に至っていないが、学生評価は4.6ポイントと評価されている。これに甘んじず状況を打破するためカリキュラムの根本的な見直しを考えている。昨年度より開始された新カリキュラム構成による改善を期待している。

#### 5. 今後の目標

短期目標：授業評価内容の改善、学会及び課外活動の充実

半期毎の授業評価の内容を項目毎に吟味して、改善できる内容については着実に変更していく。毎年同じ授業資料を使用して、同じ内容を実施することで業務負担を減らしたいが、新カリキュラムの変更によりしばらく業務量は増加する見込みである。効率的に行うためには年間計画を無理なく建てることにより余裕を持った時間配分にせめておkなっていきたいと考える。看護学においては変動する社会状況に敏感となり多岐にわたる情報元の確保と収集を図りたい。

長期目標：地域で活躍し続ける看護師の育成。

毎年5万人に及ぶ看護師の育成に寄与しているが、継続されないために看護の成長が滞り、疲弊した臨床現場が続いている。「やめない看護師」「看護を継続するからこそ得られる喜びが持てる看護師育成のため卒業後教育も念頭に入れ取り組みを検討したい。